

令和6年度

委員会だより

NO. 3

子育て委員会編

北海道PTA連合会

令和6年12月7日（土）に今年度最後の第3回委員会が開催されました。

《今年度の取組や研究のまとめと次年度の方向性等についての協議》

【成果】

- ・子育て委員会として初めて研究大会の提言校を推薦することとなり、それに向けてアンケートを実施し、回答をもとにした話し合いができた。
- ・各委員からそれぞれの単Pや市町村P連での活動報告があり、学びを深められた。
- ・アンケートの回答から、コロナ禍があげ活動が積極的に行われている現状を垣間見ることができた。また、行動の制限がなくなったことで、実施したくてもできないフラストレーションから解放された状況も伺えた。
- ・アンケートの回答や活動の交流を通して、「こういう活動なら自分たちにもできそうだ」と感じ、活動の幅を広げることができたという報告があった。
- ・PTA不要論もささやかれる中で前向きな議論や「やはりPTAは必要だ」という話があった。

【課題】

- ・アンケートの回答から、単Pの組織改編後の活動内容が明らかになっていなかったり、活動に後ろ向きなものもあったりした。
- ・委員会の活動の共有化に向けた環流の実施。
- ・PTA活動に対する堅苦しいイメージを払拭する必要がある。

【次年度の方向性】

- ・PTA活動での困り感を解消できるような取組の共有。
- ・親自身が輝き健康で笑顔であることの大切さを見つめ直すために何を学びたいのか話し合う。
- ・身の丈に合った活動の継続により、持続可能なPTAを目指していく取組の交流。

《参加した委員から各地区の実践と情報の交流》

- * P T A解散しているが学校とのつながりがあるため事務局となっているところがあるようだ。
 - * P T Aは面倒なことがほとんど、でもそれは大人の都合。子どもたちの環境を整えるのが P T A。主語を子どもに置くと P T Aはやはり必要なもの。子どもが大人になったとき親の姿を想起すると今やっていることは無駄ではない。 P T A活動を通してコミュニケーションは生まれていき、職員との関係もよくなる。
 - * がんばる大人の姿が大切。
 - * 母親委員会という名称でやっているが父親も参加できるようにした。
 - * 子育て研は毎年持ち回りで役割を担っている。集まってくる人は熱量がある。
 - * この委員会に来て大きな市と郡部の持つ悩みの違いに驚いた。持ち回りではないため、ある程度やりたいことが実現できる。小さい地区はそれが難しいと感じた。
 - * 子育て研で性教育を実施し、内容はリアルだったがとてもよかった。多くの人に聞いてもらいたかったが、周知の方法が課題。
 - * 単 P の活動をまとめて冊子をもとに交流。刺激を受けた。誌面交流で他単 P の活動がみえた。
 - * まわり順で役割がくる。 P T A活動は主体的に活動できることをめざして活動したい。持続可能な活動にするためには義務感はない方がよい。どういう仕組みがよいか考えている。
 - * 名称をフェスに変え、研究大会という固いものはやめた。動員をやめ、魅力的な内容にすることを目的に実施。あいさつも短縮し、活動時間を確保した。
 - * 講演で親が子ども以上に喜ばない事など話してくれた。親として考える部分が多かった。
 - * 切り替えスイッチを用いた気持ちの切り替えをみんなでやった。
 - * 他地区の話聞いて勉強になった。 P T A会長になり、大人が楽しもうという趣旨で活動してきた。自分が町の宝を育てていくという道筋を作れたような気がした。
-
- * 委員の皆様には、お忙しい中、委員会へのご出席、ご意見をいただき、ありがとうございました。また、各地区での活動もありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。
 - * 「委員会だより NO. 3」は道 P 連のホームページ「子育て委員会だより」に掲載されます。

北海道 P T A 連合会事務局

〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 3 丁目

S T V 時計台通ビル 6 階

TEL (011) 251-6937 FAX (011) 210-0929

E メールアドレス info@hokkaido-pta.jp